

平成21年度第3回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成21年9月3日(木)
- 2 開催場所 氷見市ふれあいスポーツセンター会議室
- 3 会議時間 午後4時～午後5時20分
- 4 出席委員 上野隆子、川上修、坂尻英之、嶋尾正人、田岸昌治、茶谷正清、辻本勉、中筋國雄、西塚友彦(七尾雅周委員代理)、姫野貞夫、前田利寛、森晨朗、山岸教男、山下金次郎、鷹田清四郎(伊藤正昭委員代理)、浦野良一、佐藤泰樹、大橋昇司、藪田雅彦、垣内哲男、小堀正夫、澤武勝弘、田中英雄、嵩尾憲昭
- 5 欠席委員 森節子、森本太郎、屋敷夕貴、干場隆光、釣賀節子
- 6 市出席者 堂故茂(市長)、棚瀬佳明(副市長)、前辻秋男(教育長)、甲井勇紀夫(企画広報室長)、金谷正和(総務部長)、東海慎一(市民部長)、江添良春(建設部長)、川田優(産業部長)、山崎外美雄(教育次長)、干越正則(消防長)、桶元勝範(企画広報室次長)、濱井博文(総務課長)、廣瀬昌人(財務課長)、七田克行(総務課主幹)、草山利彦(財務課主幹)ほか
- 7 傍聴者 市議会議員1名
- 8 案 件 (1) 行財政健全化部会長報告
(2) 補助金等審査部会長報告
(3) 質疑応答、意見交換
(4) 意見の取りまとめ

<協議資料>

- 資料1 新行革プランの構成(案)について(行財政健全化部会長報告)
資料2 補助金の見直しについて(補助金等審査部会長報告)

9 会議録

発言内容	
会長	<p>今日で第3回目になり、今日でまとめたいと思っておりますが、その先に、この間の選挙で世の中も変わってきたようで、今後、どういうふうになっていくのか不安もありますし、期待もあります。今、こういった改革を手がけておりますと、非常に気になりますのは、改革、見直しというのは大変難しいことだと。例えば、今度の目玉になっていきます子ども手当についても、枝もの取って幹を見るという言葉がありますけれど、枝の中にいろんな要素があって、例えば、この2万何千円がないと明日から食っていけないという人が何割おられるのか、あるいは全く欲しくないという人が何割おられるのか。また、高齢者の人がまた負担をするということですけど、この人達が一生懸命、自分が食わずに子どもを一生懸命育ててきて、どうにか子育てが終わったら、子育てにまた力を貸せという話も出てくるわけで、こういったことに十分応えるだけの資料、データを揃えないと、なかなか納得していただけないだろうと、そういったことをつくづく感じております。</p> <p>今度の行政改革につきましても、非常に厳しい。財政難から補助金を削られたり、いろんな面があると思っておりますけれども、そういったことをいかに市民の皆さんに我慢していただいて、いっしょになってこの難局を乗り切ると、こういうことだろうと思っております。</p> <p>いろいろ取りまとめられた結果につきましては、市民の皆さんが納得できるような説明、情報提供に努めていかなきゃならないと思っております。</p> <p>本日の会議でございますが、だいたい1時間半ぐらいで。今日は特に、部会の皆さん方にいろいろやっていただきましたので、そういったことも発表しながら、それを中心に議論していただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。それでは、最初に市長のご挨拶をお願いします。</p>
市長	<p>委員の皆さんには大変お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今ほど会長の方からございましたけれども、政権交代が行われました。景気の方も底を打ったという報道もあるわけですけども、依然として市の経済環境、特に雇用環境が厳しくて直近の有効求人倍率が0.40でして、最低の水準が続いている大変厳しい状況です。そういった、行政運営、大変見通しのつきにくい中ではありますが、これまで委員の皆さんには2回の会議におきまして、市政改革の方向性について真剣にご議論いただいて参りました。本当にありがとうございます。</p> <p>特に、行財政健全化部会、そして補助金等審査部会、この2つの部会において、付託された案件につきまして、熱心にご審議をいただきました。今日は部会長さんをはじめ、所属委員の皆さんに後ほどご報告を頂戴したいと思っております。本当にありがとうございました。</p> <p>本日の会議では、この2つの部会から報告をいただいたことを元に、新しい行革プランに対する意見をとりまとめさせていただけると伺っております。</p>

今日はひとつの区切りとなるものと思っております。

市といたしましては、市民懇話会の皆様方からのご提言に沿いまして、市議会の意向も踏まえまして、関係機関と調整を図りながら、新しい行革プランを今年中に策定、公表したいと考えております。ただ、会長が申し上げられましたとおり、新しい政権になりまして、その方向がちょっと見えておりません。この補正予算、9月議会にかかる補正予算、新年度予算、そして中長期の行財政運営について見えてない部分がありますので、注意深く見ながら、プランについても成果あるものにしていかなければいけないと思っております。まあしかし、どんな状況になっても、氷見は頑張っていかなければならない。くぐり抜けていかなければならないわけでありまして、より良い改革を目指して、また元気のある氷見市を目指していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

会長

それでは、この前の会議で行財政健全化部会と補助金等審査部会で審議をしていただくことをお願いしました。部会長さんをはじめ部会の委員さんには大変お忙しい中、熱心にご議論いただき、一つの方向性を出していただきました。本当に感謝いたします。それでは、各部会の審議結果につきまして、各部会長さん方から報告をお願いいたしたいと思っております。まず、行財政健全化部会の田中部会長からよろしく申し上げます。

行財政健全
化部会長

(資料1の説明)

補助金等審
査部会長

(資料2の説明)

会長

具体的に4千万円、そして費用対効果、検証というような厳しい意見でございますけれども、報告いただきありがとうございます。

それでは、これから協議に入るわけですが、報道の方はいませんね。

ただいまの報告に対する質疑、あるいはご意見を頂戴したいと思います。

委員

初めの方の部会におり、先ほど部会長さんの方からお話があった議会に対するお願いということですが、やはり今日いろんな基準がありましようけれど、こういう結果を招くのは、市、行政そのものの責任だけでなく、全体の責任ですから、議会もまあ良からうと言いませんけども、少しづつタガが緩んできた結果ではなからうかと、こういう見方もあるのではなからうかと。ここに書いてるのは、自主的に前向きに見える形で、少なくとも市民を代表するリーダーとしてのことを示してもらいたいと、期待を含めてお願いしていると。

今後、市も将来的な人口の減少ということについて、少子化対策、いろいろありますけれども、元々結婚の進み具合と申しますが、年いってもなかなか結婚しない、できないという要素についてどう手当てするか。結婚すれば、子どもが産まれる率は高いわけですから、産まれた子どもばかりを大事にするんじゃなしに、産む仕組みも新しく。政府の対応も変わってくるであ

委員

りましょうから、市なりのものもあればありがたい。やはり、産む、産ませると、安心して産ませると、こういったことをやっていかないと。今現在、息をしている者だけを大事にするのも大事ですが、ひとつそういうことでお願いします。

二つの部会の報告を聞きまして、理解いたしました。ただ、僕が部会にもしもおったら、こう言いたいなという所もあります。

こういった長期の問題でありますので、全体からの見方からも大事じゃないかなと感じながら、今日が3日目ですけれども、2日間を感じておりました。今、委員さんがおっしゃったように、はっきりしている問題は、人口減と高齢化という問題で、氷見市は早い方だと聞いております。そういう意味から見ますと、病院の問題とか、学校の問題とか、もちろんありますけれども、先送りをしないで、厳しい方を先に実行して行くのはどうかなと考えまして、19億の削減は何とか25億ぐらいまで持っていけないものだろうか、そういうふうを感じながら、報告を聞いておりました。

財政の乏しさという問題については、これはもう、合併問題の懇話会でもっとも多く議論された件でなかったかと思えます。つまり、氷見市全員で覚悟を決めているはずだという問題が、財政の乏しさにあります。こういった思いを氷見は持つ必要があるんじゃないかと感じました。

それから、再建中ではありますが、病院の今日に至った道のり、経緯をたどってみることも、生きた教材でなかろうかと思うわけです。同じ体質の人がこのままやっていくわけですから、陥りやすい体質を持っていると考えてもよいのではなかろうかと思うわけであります。

ご承知のように、世界の金融危機、私どもの業界でよく、市場が縮小して6割経済だと言われたりしております。企業や個人にとって、どこまで自分を変えることができるかというのが問われていると思うんですね。アメリカのオバマさんに出てもらってもなく、さあみんなが変わろうと。それが今の時代認識でなかろうかと。そういう感覚に市民の皆さんに、どうしたら立っていただけるか。そして、例えば、職員の方にどう痛さに耐えてもらうことができるのかと。市民ぐるみで考えるべきでないかなと思えます。

氷見は氷見でなかろうか。それには、氷見独自の基準が必要で、よく話の中に出てくるのは、他の市町村のケースが出てきたりします。公務員規定というものが、よく今どんなもんかなと言われますが、病院の今日の姿を見ると、そういった問題が病院の危機を救ってきたのだからかと考えると、そうは思えない。氷見は氷見の体力に応じてバランスをとっていくということ、共通の理念になればならんのではないかと。やりくりを追われるというのは、氷見の特性だと思っておった方がいいと思うわけであります。従いまして、8割自治と言うと乱暴な言い方かも知れませんが、一般に尺度を求めず、氷見独自のものさしを持って、全ての問題を考えていけばいいんじゃないかと。

この間、テレビを見ておりましたら、財政再建団体を織り込んだドラマをやっておりまして、土曜日ですので、今度の土曜日も見ようかなと思っています。かつて、いくつかの事例であった財政再建団体については、最近、皆さんは忘れておるんですけども、朝から晩まで、全ての問題が削減率で問われるというような厳しい状況になってはならんわけです。とすれば、全ての問題は勉強する時は勉強して、あつてはならないことだぞといきたいものだと思います。今日は厳しくても、明日が明るければ心は豊かになると思うんです。近きもの喜ばば、遠きもの来たらんとよく言われます。近き者の心が豊かに明るくなる時、私どもの恵まれた大きな自然が観光客を氷見へ呼んでくれるのではなからうかと。市民の明るい心と豊かな自然というものが不可分であると感じています。

先ほど、部会長の言葉の中にありました議会の方でも、懇話会の総括は何らかの形で報告されるようでございますので、一つの意見として織り込めたら、織り込んでいただければありがたいなと考えております。

委員

厳しいということについては前回の資料でもお伺いしましたし、以前、改革に取り組むということの中では、二度とこういうことはないのかなということで参加したわけですが、まあ主だって各部会の方から出てきて、私は補助金等審査部会を担当していますけども。

改革プランの中身を見ると厳しい中身で、前の時もそんな話をしたと思いますけど、後ろ向きと言いますか、削ること、削ることのあまりに多い話で、ちょっとがっかりするんですけど。氷見市の活性化とか、市長さんが言われる交流都市に向けた活動とか、これから更にプラスの方向で行くような項目が見当たらないのは大変残念なことであります。まあ、その辺に關しましては、先ほどありましたけども、政権交代という中で地方分権の中で、どれだけ地方交付税の形が変わるか、これも注目するわけでありますけども、当初、検討していた中では、大変厳しいということでありますので。

私個人としては、地方分権という中で、地方をどれだけしっかりしたものに作り変えていくか、民主党の采配を見てみたいなということで。そういう厳しいことについては皆さんと同じ目線でやるべきことはやっていく必要があるかと思いますが、プラス思考の方向で進むことであれば、議会の方も含めて、行政の全体の力の中で、プラスに動くようお願いしたいなと思います。

委員

私は行財政健全化部会に属しておりました。その中で職員数の考え方、定員管理の件ということで、22年4月1日の見込みに比べ27年4月1日の見込みが、一般行政職でマイナス17人ということになっています。単に仕事を減らせば、当然、市民へのサービスの低下は避けられないと思います。

その中で、現在の職員の方、今まで行っていた仕事、プラスアルファの仕事、マルチスキル化していかなければ、当然、サービスが提供できないと思いますので、その中で心配になっているのは、社会的に今問題になっていま

すメンタルヘルスです。過ぎた競争の中で、企業の中でも心の病を抱えている人は多数います。こういう職員を減らして行く、そして職員の仕事量、仕事の環境が変化して行く中で、この辺に十分気を遣いながら、職員の定員を適正なものに変えていくようお願いしたいと思います。

委員

非常に申し訳ないんですが、1、2回とも欠席させてもらって、議事録だけは一生懸命読みまして、資料もある程度見させてもらいました。

その中で、僕はこういうのに参加したのは初めてなんですが、前から58億、21億で、今度は49億。企業経営をやっていますけど、こんだけのことを単純に数字でみるとびっくりするようなコスト低減をやられているんです。ただスタート点でもう見込みがあるうとは思いますが、こっだけやって、更に絞り込むということは、先ほどの委員さんと同じで、コスト的なことばかりやっていて、本当に先に楽しいというか、少し先を見たことを考えた方がいいんじゃないかということと、一つ思ったのは、はっきり言って、市は堂故株式会社みたいもんで、500人弱の市に働く人が、会社経営は従業員のモチベーションを上げながら、いかにアウトプットを出すか、そういうことを一生懸命考えますんで、何かこういうやり方、予算カットだから、市の人にとってはものすごくネガティブなことなので、例えば、先ほどの職員カットなんだけど、頭数じゃないはずなんですよね。頭数じゃないはずなんで、単純に数字目標はそうなんですけどね。やっぱりその500人以上の職員のアウトプット、パフォーマンスをいかに出すかということの活動が一番。結構、同じ予算の中で、どう出すか、何か仕掛けがあった方がいいんじゃないかという気がします。企業経営から言うと、最近よく言われているのは、「見える化」なんですよね。こういう会合も、市民と市行政サイドとをお互い「見える化」しようとしているんでしょうけど、そのレベルでいいのか。それと市行政の中で、どう「見える化」しとるかということが、働く市職員のモチベーションを上げるということだと思ってるんで、その「見える化」の仕掛けとして、どんなことがあるのか、いろいろアイデアがあるんで、企業は企業でそれなりにやっていますけど、そういうことを市の幹部の方が考えながらやってくれたら、ネガティブな議論ばかりの所から少し明るい方向が見えるんじゃないかなという気がします。

委員

行財政健全化部会の方で意見はいろいろ言わせていただきましたので、あまり意見はもうないんですが、お願いを最後にしておきたいなと思います。歳出の抑制はもういた仕方ない、やむを得ないという考えでございます。

ただ、市の財政に頼ってらっしゃる氷見市の企業、又企業に働かれてらっしゃる従業員の方々、大変厳しいものがあります。ぜひ、今まで以上に氷見市の企業を大事にさせていただいて、また、少ないながらも予算の執行を毎年スピーディーをお願いしたいのと、この2点を言わせていただきたいと思います。

委員

先ほどから、5カ年計画を拝見して、なかなか大変なんだろうなと思うん

	<p>ですが、まず初年度、これを確実に実行していただきたいと思います。初年度の実行が無理となれば、翌年度、その次の年がというふうになります。計画を立てたからには、初年度の実行を確実にお願いしたいというのが私の思いでございます。</p>
委員	<p>詳細な資料のご説明をいただき、ありがとうございました。両部会の委員の皆様方、大変だったと思います。</p> <p>今度の5年間もかなり厳しい状況なんだろうと。まあそれも考え方によりまして、47億あったものが、5年間で19億減らせるんだから、あと残りは28億。あと五年間で何とかすればいいのかなという思いもすれば、気も楽になるのかなと思います。</p> <p>担当政権が変わりますが、変わったからといって、決してこれ0にはならない。軽くはなってくるんだろうと思いますが。そういう意味では、市民の皆さんに現状を理解していただく。行政サービスも少なくなってくるんで、その点も皆さんに了解を得られるようなPRの仕方、情報提供が必要になるうかと思えます。</p> <p>それとちょっとお聞きしたいのが、実質公債比率、20年度だとどれくらいになってしまったんでしょうか。18年度の時はいくらかかなり厳しい状況だったと思うんですが。</p>
総務部長	<p>20年度の実質公債比率でございますが、これは18、19、20と3カ年の平均で発表しておりますが、22.3で、昨年19年度決算の場合は20.7でございましたので、1.6ポイント悪化しております。</p>
委員	<p>そうしますと、起債をする時には、県の許可が必要になるということになってくるわけですね。</p>
総務部長	<p>実際、実質公債比率で18%が基準になっておりまして、18%まではいわゆる協議でよろしいというふうになっております。18%を超えますと協議でなくて、当然、ご相談を申し上げて許可をいただくという形になります。</p>
委員	<p>かなり縛りがまた一つ増えたということで、行政の人たちは一層のご努力が必要になってくると思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。県の許可を得られるようにご尽力していただきたいと思ひます。</p>
委員	<p>今まで皆さんがおっしゃったことは本当にそのとおりだと思ひます。人口が増えないということは、部会でもいろいろ話題になったんですけど、委員さんもおっしゃいましたけども、こんなに素晴らしい景色と食べ物と、そして人情厚い人々がいて、どうして人口が減っていくのかなって。どこの市町村もそれを抱えているんでしょうけども、ちっちゃい時からの郷土愛とか、そういうもの持って育って行って、ここに定着して、結婚もしてもらい、子どもも育ててということができれば、言うことないなと思ひているんですね。やっぱり、郷土愛を育てていくこと、そして、安心して子どもを産める環境を整備していただくこと、そういうことをこの際ちょっと</p>

言いたいことの一つです。

委員

あまり難しすぎて、分かりません。ただ、金がなくて非常に厳しいというのは、どこもかも、家庭も市も同じだとは思いますが、その中でも少しでも、前向きな考えができるような市であってほしいという思いだけであります。

委員

年間80億円ぐらいは市税以外で歳入を賄っている氷見市というのは、噂には聞いていましたが、今後、政権が変わって、地方交付税の配分と富山県は野党な感じなんですので、直接官僚政治じゃなくて、政治家に陳情するような時代も迫っている所も含めまして、氷見市は切迫した情勢が予想されるなど思っております。その中におきまして、先ほど委員の皆様からお話がありましたとおり、あまりマイナス思考の考え方をせずに、私も今後は若い者の一員として、人口増加に少しテーマを置いて、皆若いもんの中で話をしていけばいいのかなと。民間サイドでできることは民間でお話しして、少しでも氷見の土になれるように努力していかなければならないかなと会に出て痛感いたしました。

後は、ちょっと細かい話なんですけど、補助金の詳細、何か4,000万円のリストをいただければ、また私たち民間サイドで、ここでこんな補助金をもらっているのはどうかな、ちょっとしたクチコミで、いい加減お前らどうやとか言えるかなと思うんで、細かいお金の方ももしいただければ、しやすかったかなと思いました。

委員

職業柄、市民病院の建替えということが一番頭の中にあるわけですが、ぎりぎりの予算でなきゃいけないということはよく分かるんですが、それでもやはり、10年先、20年先のことを考えますと、どこかに余裕を持って、10年後や20年後になかなかいい病院だなと言われるようにしてほしいと。この予算全般というものに、やはり少し余裕を持って、心に余裕を持って何とかカットしてほしいと思っています。

委員

いろいろ参加させていただきました。職員の人数にしてでも、臨時の職員を定期的に雇用したりしながら、市の方もいろいろやっていいと思いますし、やはり機能するような人数というものがあるのかなと思いますし、そこらへん、私達は分かりませんが、これから政権交代があると、いろいろ地方に仕事が回ってきたりとか、機能しなくなるような事態が起きたりするのかなとも感じております。職員の方々も機能するように、ニーズを常に把握しながら、していただきたいと思いました。

そして、補助金の方で、私たちもいろいろ青年会議所として活動している時に、行政から助成金など頂きながら活動していますが、私たち、まちのためにと活動していますが、そういった部分でも、費用対効果といったことを考えながら活動していきながら、地域に貢献していきたいと思いました。

委員

まず、行財政健全化部会で話してたんですけども、入ってくる方と出て行く方が、歳入と歳出があるわけなんですけど、歳出の出て行く方ばかり

を、マイナス思考で、減らすことばかりの資料だと思う。歳入の方が1ページ、ここの資料でも載ってて、歳入の方は税金の方、98.5%まで取りますよというのと。なおかつ地方交付税がもらえるように、選挙でちょっと政権交代してるんですけど、もらえるようにと神頼みみたいな歳入のやり方なんですけども。先ほど委員さんが言われた感じで、削る方ばかりをやっていくと、資料を見てこれ市民にやってって、ムダを省いていくんですよというの分かるんですけど、楽しいものが何にもないように感じるの、この資料の数字だけだと感じてしまうんで、まあ余裕を持ってやっていくと。

委員さんも言われてましたけども、何か市民に対してでも歳入の部分でも、ごみの有料化で4,000万とか5,000万とか、今までなかった分が氷見市に入ってきたというのもお聞きしたりしてるんで、もっと何か歳入の部分で、滞納者を削るとか云々とか言うよりも、もっと具体的な、開発的な意見で入ってくる部分も議論して、氷見市も水道も半分になったぞというようなことを言えるような何か前向きなものをここに入れて、その分ぐらいの予算を削減しても、文句は出ないと思うんですよ。そういう民主党さんですか、高速道路無料化という、今まで考えもつかなかったアイデアがやっぱり出てきて、その分は何かで負担しても、じゃあ分かったよと言えるようなものを出していかないと、この資料だけだとがんじがらめでやると、氷見もなんだ、削るだけかというふうにとられても仕方ないと思うんですよ。僕ができることは、市でタバコを買ってますんで、今まで1箱吸っていたのを2箱吸って、税金に協力してやろうかなと。あと商売の方も、儲けたら、市税をもっと払ってやろうかなと。本当に極端な例になっていかざるを得ないので、もっと資料の中に温かみを入れるような何かもう一つあればいいかなと。補助金の健全化は削ることばかりなもんですから、皆さん、いろんな団体に所属してて、補助金を頼りにやっている所もたくさんあるんですけど、ちょっと一ひねり、私、市の方には要望したいと考えております。

委員

健全化部会でした。限られた時間と限られた日数の中で、ここにあります47億の不足をどうするかということになれば、今、委員さんがおっしゃった冷たいという感じはしますけれども、当面の目標がないことには実行ができないわけです。そういう意味において、これは目標値でありますから、絶対にこれに近づけてもらうということで、頑張ってください。

その中で、市の職員自身がいかにモラルを上げて、先に望みを持って、5年後には黒字になるんだと、その先は明るいんだという一つの目標を立てることが大事。人間を減らすことよってモラルの縮小になるんじゃないだろうかという懸念をする人もおりますけども、今でもう情報はコンピューターですから、全部、どこにいても、市の職員、分かるわけですよ。そういうことを考えますと、一人一人、もうちょっとレベルを上げてもらって、先に望みを持って、楽しい、それからもっと企画力のある人を作っていただきたい。

委員	<p>皆さんのご意見を聞いていて、ほとんどはなるほどなと思うわけでございますけれども、ちょっと一つだけ。例えば、定員問題の所で、数値の上で職員を減らしていくと。その改革は、それは大事なことであり、予算の上では確立できると思っておりますけれども、人員を減らして、それだけの実績、内容効果がどうなるのかということ、もちろん考慮されての話だと思っておりますが、その所が少し心配な所がございます。</p>
委員	<p>素朴に思うんですけども、行革ということで皆さん、集まられているんですけども、職員の削減、給料の削減だとか補助金の削減、いろいろ削減されて。まあ頑張っておられるのも分かるんですけど、こういったことが行革なんかとずっと感じております。先ほどから何人もの方がおっしゃられているように、なるほどなと思います。</p> <p>また、収支の均衡を大事にされているのは分かりますが、会社ですと収支の均衡はなかなかうまくいかず、先行投資なり、人材確保なり、いろいろ会社がそれなりに考えて頑張っているところでございまして、そういった形をとりながら、収益性のある事業を展開していくことができないかなと思いました。具体的にこれがいいのかとは僕には答えられませんが、そういったことを考える行革であってほしいなと思いました。</p>
委員	<p>私は資料1の部会長報告を支持するものであります。今の政権情勢は何か、国民が政治におねだりをしているという表現をされるわけですが、そんな傾向にあるわけですね。これは、今日の新聞のコラム欄にも前の日商の会長の山口さんが言っておられるのを読んだわけですが、そんなことで、厳しさもあるけど、要望も大きいと。我々としては、まちづくり、ひとづくりというようなことで、大いに行政に力を発揮してもらいたいと切に思っております。大変でしょうけれど、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>別に、言うことは言い尽くしたので。</p> <p>何か私、聞いたところによりますと、ボーナスの何%かを地元の民宿で使えるような利用券をボーナス代わりに何%か、充てたとか。そういった話も聞いておるんで、なんかそういった、ちょっとは地元の消費に還元できるようなカットだとあんまり職員のカットも、5%という数字だけじゃなしに、そのうちの何%かを地元で使える商品券を利用するとか。詳しくは聞いておらんですけど、もう一回そこらへん、何か説明していただけないか。</p>
委員	<p>答えは一生懸命、これ(はと麦茶)を飲んでいただきたいと、こういうことであります。</p>
委員 会長	<p>全中ハンドにでかいと寄附してもらわんなんから。</p> <p>だいたい一通り、ご意見を頂きまして、皆さん様におっしゃるのは、削る方ばかりである。苦しい中にも楽しい話ですけども、これについては、行革以外でいろいろ考えておられると思っておりますけども、こういう問題を含めて、市の方でまとめて一つお話をいただければありがたいと思います。</p>
市長	<p>熱心な議論、ありがとうございました。一人一人、それぞれ深い話をいた</p>

だいたと思います。

合併の話が聞こえてきて、合併しないという選択を、相当丁寧にしました。あの時、相当の覚悟がみんな、集まっていたいただいた皆さんに、その中でも明るい未来を考えるためにマネジメント、やりくりをできなくて何を言っても始まらないということだったと思います。その中で想いが募ったからこそ、こういう改革、周辺ではできなかった民営化にも踏み込んで、またスタートさせることができたんじゃないかと思ってます。

ただ、それで終わりとなれば良かったわけですけども、過去のふれスボだとか、総合かんぱい事業だとか、大型事業の償還金の返済のピークが終わらないということ。それから、病院改革に伴う一時的な支出、退職金だとか清算ということが重なりました。また、一番痛かったのは、これは私に言わせると理不尽なんですけど、交付税がここ数年間の間に、純粹に言って7億円減らされた。これはどう考えてもおかしいと思うわけですけども、そんな弱音を言っているだけでも始まらないわけで、その上に病院建設をしなきゃいけないわけで、学校を改築しなきゃいけない、あるいはまちづくりも予算を割かなきゃいけない。そんなことを考えると、どうしてもここ数年、一番苦しいけども何とかやりくりしていきたいということで、会を開かせていただきました。削減額と同じぐらい基金が使えるんじゃないか、余るんじゃないかとおっしゃるかもしれませんが、かなりここまで雑巾を絞り絞っている状態でありますので、ここは基金を使わせていただいて、乗り切らせていただきたい。また市民の皆さんにも、ご協力いただきたい。職員も頑張ってくれておりますので、ぜひこういう方向でお願いできないかなと思います。

ただ、さっきから何人ものお話で出ておりますように、決して後ろ向きになってはいかんと思います。これを乗り切って、氷見らしいまちづくり、交流人口の拡大、あるいは食を発信するまちづくりを含めて、前向きなまちづくりを進めていきたいと思っております。それを担うのは、もちろん市民の皆様ですけれども、市の職員も大きな役割を担っています。平成始まった頃に、1,200人近くいた職員が、この計画では400名ぐらいになるうとしていきます。数が減ればいいというものではなくて、やっぱり一人一人がしっかり仕事を、モチベーションを持ってしてくれる職員でなければならないし、地方分権、間違いなくその方向に行くと思います。企画力、交渉力、また市民に接する温かい職員でなければ、少数精鋭の職員で行政をマネジメントしていけないんだと思っております。また、委員さんの方から話がありましたように、職員を私どもも大切にしていきたいことをしっかり考えていきたいと思っております。

いずれにしても、そういう職員も頑張りますけれども、これだけ苦しい所を逆に、元気出して行くためには、企業の力、欠かせないと思っております。企業にも元気を出していただくような状況を作っていきたいと思っておりますし、また市民のお力というのは、あらゆる面ですごい大きいわけで、市民の共感を得られるような、あるいはお金を出してもいいよと言えるような事

業を企画立案していくというようなことも、例えば、頑張っていたら、ペットボトル（はと麦茶）をたくさん飲んでいただいて、去年750万円頂きました。ありがとうございます。こんなような事業を含めて、また病院が民営化されたように、あらゆる氷見の施設、保育所を含めて、民営化の力で、逆にコストを削減されながら、元気のいい、行政課題にも対応していただいていることも随分出てきましたので、そういうことも念頭に置きながら、今日はお通夜みたいな話で恐縮ではありますが、マネジメントできて何ぼだと思えますので、その辺はわきまえて前に進ませていただきたいと思います。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

会長

はい。どうもありがとうございました。

委員の皆さん方のご意見を聞き、そして市長のお話を聞いたわけでございますけれども、そろそろ時間でございますので、よろしければ、両部会長の報告を了承することといたしまして、いただいた意見を反映しながら、市民懇話会の市長への提言としてとりまとめていきたいと思っております。提言書の内容につきましては、本日いただいたご意見等も踏まえながら、両部会長と私でまとめてきたいと思っておりますので、ご一任をいただければありがたいと思えます。もちろん、まとめたものにつきましては、委員の皆さん方にお送りすることとしたいと思えますが、それでよろしゅうございましょうか。

【一同の拍手で了承された。】

ありがとうございました。それでは、両部会長と責任を持ってまとめますので、よろしくをお願いします。

委員の皆さん方には3日間に渡って、あるいは部会で熱心に論議いただきまして、誠にありがとうございます。今日は中身のあるいろんなご意見をいただきました。市としては、先ほどからあります病院の他にも、朝日丘小学校とか南中とか、あるいは広域ごみ処理場等々、大変な事業があるわけでございまして、これらにつきましても、一生懸命やっていたかんならんとということでございますので、大変でございますが、今ほども話にありましたけども、政権が変わって地方分権が進むということになりますと、市の職員の企画力が問われるわけでございますので、少ない職員でも、今後とも一生懸命に頑張っていたいただければありがたいと思っております。

今後どういうふうに政局も動いて行くか分かりませんが、先ほどからの話にあるように、氷見でできることを、あらゆること想定しながら、建設的に、また皆さんのお知恵をいただきながら、神妙な（殊勝な）氷見市になればいいなと思っております。

近く、日程を決めて市長に提言したいと思えますけれども、市としてもそういった所にご斟酌いただいて、提言を尊重していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。今日はお忙しい所、長時間に渡ってありがとうございました。